

令和５年度（２０２３年度）第３回南区まちづくり懇話会 会議録（要旨）

１ 日時 令和５年（２０２３年）１０月６日（金）午後２時～４時１５分

２ 場所 南区役所 ３階大会議室

３ 出席者 計３２名 （出席者名簿のとおり）

・南区まちづくり懇話会委員 １３名

柴田委員（会長）、正木委員（副会長）

西村委員、宮本委員、立岡委員、北野委員、福田委員、牛嶋委員

後藤委員、松永委員、坂口様（井藤委員代理）、楠村委員、高橋委員

・事務局（熊本市職員） １９名

南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、区民課長、土木センター所長

南区管内まちづくりセンター所長（６名）、福祉課長、保護課長、保健子ども課長

総務企画課職員（４名）

４ 内容

（１）開会

（２）区長挨拶

（３）意見交換

令和６年度南区まちづくりの取り組み（案）について

（４）その他

・南区サロン（自治会の在り方等について）

（５）閉会

５ 意見交換議事録

「令和５年度南区まちづくりの取り組みについて資料１-１・令和６年度南区まちづくりの取り組み（案）について資料１-２

<資料１-１及び１-２について 事務局から説明>

（柴田会長）

今年度の取り組みと来年度の企画の案を御紹介いただいた。

どこからでも結構なので、普段やられていること等を通じて、例えばこんなことができるのではないかと、こうしたほうがよりよくなるなど御意見、御質問をいただきたい。

（西村委員）

新規事業で防災遺構等を訪れるバスツアーがあるが、国土交通省を始めいろんなところで事業が開催されていると思うが、例えば益城町で開催されている防災については国土

交通省もサポートの形で説明を行っているが、単独だと経費の負担が大きいし、どこでもやっていることなので、協議して中身については国交省に任せると一緒に事業を行ったほうが良いと思うが、そんな形で予算の組合せとかは考えているのか。

（事務局）

国交省等との連携については、来年度どういったことをされるのか承知していないので、今後連絡をとって内容の精査をしていきたいが、まずはほかの行政機関がどのようなツアーをされているかを調べたうえで連携できる部分があれば連携していきたい。

（西村委員）

いろんな形で一生懸命、熊本は頑張っていらっしゃるので、できれば熊本県全体でまとめて、少しでもうまくいくように期待している。

（牛嶋委員）

子どもの安全教育はあるが、防犯となるとどこを探してもあまりない。いろんな事業は、子どもたちの安全、まちの安全があってこそできるので、身近で安全・安心を体感できるような施策を盛り込んでいただきたい。

それと、青色回転灯パトカーがあると非常に子どもたち、また地域の方も喜んでくれる。これ1台で、災害時にはパトカーのかわりにもなる。南区の各小学校区で1台パトカーみたいな青パトを管理すれば、何かあったら数十台が集まる。パトカーが一遍にそれだけ増えるし、地元の人たちも知った顔の人が乗っているから安心できる。費用は掛かるがモデル地区を設定して、実績を積み重ねていただきたい。もし新規事業の中で、やってみようかなということがあればぜひお願いしたい。

（柴田会長）

防犯のメニューがないという話で、この点についてはいかがか。

（区長）

区には広報車があって、防犯を呼びかけたりもしている。御提案の青パトは警察じゃないが安全確認というところで、国交省でいうとキーパトとか、道路確認をしていくところもある。趣旨は理解できるが、管理の問題と駐車スペース、燃料など様々な問題があると思っている。せっかくご提案いただいたので、青パトを導入している自治体があるのか。また熊本市で実現が可能なのか研究させていただきたい。

道路パトロール車両は土木関係が持っているが、この安全確認では管轄が県警になるので、単独で取り組んでいる事例がすぐに思いつかないので研究させていただきたい。

（柴田会長）

青パトというのは、どういう仕組みなのか。

（正木副会長）

飽田東校区では１台、こういった青パトではないが個人の軽乗用車に回転灯をつけて、ドアに防犯ステッカーを貼って地元の人たちが小学校の下校時とかに巡回している。

（牛嶋委員）

川尻校区は５年前に青パト１台を自治会の会費で買っていただいた。駐車場とか管理の問題もあるが防犯協会長の自宅で管理している。維持費は町内会費で賄っている。そして、青パトが走り回っていると子どもたちが喜ぶ。以前、個人の車に青色の回転灯をつけてやったがインパクトがない。個人の車で白黒のパトカーみたいな色にすれば、誰だってハッとする。青パトを見ると皆さんが車両速度を緩められる。公共団体で考えると一番多いのが東京。自治体買って、各校区に１か月ごとに貸与して運用している。熊本でも声かけ事案等はあっているので、子どもたちに安心を体感してもらうために必要だと思う。

（柴田会長）

区長も研究するとおっしゃったので、ぜひ引き続き御検討いただきたい。

（正木副会長）

新規事業は、区で提案されているのか、それとも、地元からの提案のもとに作成されているのか。

（事務局）

ここ数年、まちづくり推進経費１,９００万円の中で今までは共通事業が多かったが、来年度は各まちセンから単独事業が多くなっている。南区の各課で企画しているものもあるし、この懇話会で意見をとり入れた事業もある。例えば、継続事業の地域資源活用事業は野菜の収穫体験等を今年度も行っているが、これは過去に懇話会で体験ものが必要という御意見をいただいて取り組んだ事業となっている。

（柴田会長）

幸田のボッチャのようにサロンで提案があったことをやるというものもあるし、まちセン担当職員が企画されたものもあると理解した。

（高橋委員）

予算の推移について、令和６年度の予算ではまちづくり懇話会の予算が半減しているがどういうことなのか。例えば、開催回数が少なくなったとか、令和４年度から比べても相当な減り方になっているので、今後どういうふうな懇話会の在り方をされるのか。

（事務局）

令和４年度は懇話会の予算に１４６万円計上させていただいたが、令和４年度はまちづくりビジョンの検証がテーマにあった。懇話会の中でワークショップ等をさせていただいたのと別に区民アンケートを行っている。この業務委託の予算が入っているため増え

ていたもの。令和5年度は6回程度、来年度は5回程度の予定で予算計上している。

（高橋委員）

イベントの開催がまちづくり事業の中で多いが、イベントをした後の効果測定は必要だと思っていて、防災バスツアーに参加した住民の方が日頃の生活の中でこういったことを心がけるとか、そういった方向に向いてもらえるような企画が必要だと思う。例えば、防災でいうと防災士の試験を今度受けようとか、防災に強いまちづくり育成事業のイベントに誘導するようなアンケートをイベントごとにやって、その際に、今後南区が主催するイベントについての情報を希望される方は、メールアドレスを書いてくださいなど、次につながるようなものがあるといいと思うので、ぜひ、御検討いただきたい。あとは、飽田企画の食育の話があって、このような取組が全まちセンでできれば人材育成とか人材発掘にもつながる。

（楠村委員）

まず交通安全対策事業は、とても気に入っていてもっと広がるとよいと思うが、なかなか見かけることが少なくて、城南地区で見られたらほっこりできると思う。令和6年度にどのくらい設置されるかを教えていただきたい。

2点目、新規事業の木原神楽は、公共機関等での上映とあるが、南区のホームページがあるのでショート動画ではなく、フル動画で見られるような掲載方法があるといいと思う。また、こういった上映内容になるかも含めて教えていただきたい。

最後に、わがまち今昔カルタ製作事業は、高齢者と子どもと3世代住んでいれば取組やすいと思ったが、なかなか一般の高齢者とよその子どもとの交流はなかなか難しいと思う。地域でそういった交流が図ればいいが、このような関わり方はもう少し深掘りできるといいと思う。

（事務局）

今年度は日吉東小学校周辺を考えている。南区も広いのでバランスよく計画的に貼っていく予定でR6年度は5枚のサイン作成を考えている。

（事務局）

木原神楽についての周知方法、ホームページについては御意見も踏まえて、また実際に保存会の方々との意見交換でどういう形での周知を望まれるのかも踏まえたうえでの検討となる。この神楽自体がずっと練習を続けられていて、お披露目が正月と毎年開催される六殿宮例大祭だが、フル動画となると長時間になると聞いているのでバランスを見ながら、いろんな方々の意見を参考にさせていただき、来年度考えていきたい。

（柴田会長）

ぜひユーチューブで周知をお願いしたい。

（事務局） 南部まちセン山本所長

世代間交流は非常に重要だと考えていて、高齢者が孤立してしまうとか、少子化によって高齢者の方と触れ合う機会も少ない。次世代を担う若い世代にこういった地域の歴史、文化、伝統などを継承していくことで地域の魅力というものがより子どもたちに伝わると思う。また逆に若い世代からはこういったことがあるなど高齢者の方が御存じないようなことも新たな魅力発見にもつながって、これを一緒に作成していくことでよりよいものができると思うので、御意見を伺いながらしっかり深掘りしていきたい。

（柴田会長）

数年前、玉名カルタをつくった。読み札は観光協会主催で玉名市のよいところの読み札を50個募集したら3千個集まった。選ぶのがすごく大変だったらしいが、その審査会はすごく楽しい会だった。次の年にその句に当てはまる絵札のフォトコンテストを開催した。晴れて3年目で合わせて印刷して、小学校に配った。3年間かけてやって、そのあと、毎年カルタ大会をやっている。つくるプロセス、そしてできた後の大会。うまくやるととてもいいツールになると思う。ぜひそのプロセスを御検討いただきたい。

（宮本委員）

高齢者が関われる事業をたくさん企画していただいて、すごくありがたい。ぜひ、ささえりあが高齢者の相談窓口として各校区にもあるので、後方支援や集客などいろんな活動と一緒に協働してできるのではないかなと思う。

各委員からも上がっているが、効果測定においては、第三者として一緒に協議ができればよりよい効果測定が図れるのではないかなと思う。

あと、ささえりあでいろいろ広報活動として周知、啓発をしているが、なかなかその点が難しいと感じているので、いろいろツールはあると思うが、ユーチューブとかも声が上がっている中、より目に触れて、たくさん参加していただいて、新規で終わらず継続できる事業を一緒につくり上げていきたい。

（事務局）

新規、継続事業について、若い世代、高齢の世代、当然、地元に入っていらっしゃるささえりあの御協力なしではなかなかできないところもある。カルタづくりにしても高齢者の方々と一緒に触れ合いながら、地元のことをよく知っている方々と新しく入ってきた若い世代の方々と触れ合いながら続けられるといいと思うので、今後とも地域とささえりあと一緒にあって、令和6年度も事業を進めていきたい。

（北野委員）

小学校の読み聞かせや子育てサークルに行くと保護者がどうやって子どもをあやせばいいか迷っている姿が非常に多く見られる。

つい先日、飽田西校区で子育て支援ネットワークで防災スタンプラリーをしたら、0歳から90歳代のおばあちゃんたちまでいっちゃって、「あなたはどこ、あなたのお母さん、この子だったのね」というふうな言葉が飛び交って、防災のことも学べるし、子どもたちもすごく地域との顔見せもできて、こういうふれあい活動も必要だと感じた。

また、小学生はタブレット持って帰ってくる。分からないことがあると、検索すれば画像が出てくる。だから、子どもは考えない。やっぱり人への思いやりは家庭教育でないと伝わらない部分だとすごく感じていて、子どもを中心に考えた親子ふれあい活動に加え、地域を巻き込んでいくことが必要だと思う。

（柴田会長）

御意見をたくさんいただいたのでぜひ御参考にしていただきたい。

それと飽田西校区でされた子育てと防災、コミュニティのつながりが複合している。それがとても重要だと思う。ぜひそういったことを意識すると、イベントがただのイベントじゃなくなると思う。今の話の中でとても重要な点だと思う。

（立岡委員）

幸田まちセンのボッチャ大会、来年パラリンピックの開催ということで、障がい教育も少し兼ねていただいていて、非常にありがたいと感じている。障がい児や障がい者の社会参加とか地域の方と交流できる機会が非常に少ないと感じている。大前提として障がい理解の普及啓発が必須だと思うが、世代間交流の中に障がい者の方々も入っていけるような取組も考えていただきたい。

もう1点が、親子向けのICT講座で、共働きでつついスマホに子育てさせてしまったりという意見を聞いたりするが、障がい児の特性が強い子どもで手がかかったりすると、つつい長時間見せてしまうということをお聞きする。またスマホでゲームをしたりとか、そういう時間が長くなると不登校につながったケースも見聞きする。富合だけではなく、いろんなところでこの講座を行っていただきたい。

（柴田会長）

最後のところだが、例えばまちセンごとでやっている事業というのは何か。管内の人が対象なのか。南区全体が参加できるものなのか。どういう感じなのか。

（事務局）

現時点では、親子が一緒になって家庭でルールづくりをして、どのように家庭内でルールを守っていくかを考えている。来年度はどうしても小規模な講座になってしまうが、効果測定も踏まえて、富合校区だけではなくて、各校区に広めていくような効果や意見が出れば、他のまちセンにどういった効果があった、どういう反響があったということは伝えていきたいと考えている。

（柴田会長）

どの事業も各まちセンでやるということなのでまちセンの範囲内でやることを想定されていると思うが、次につながるようなこともぜひ御検討いただきたいと改めて思った。

（福田委員）

今年から近所の畑で農業を始められて、頑張っている方がいるが、米だけつくっても生

計が成り立たないというのをすごく実感されている。どうにかこの御幸木部の米をアピールすることが出来ないかなということで、御幸木部で収穫祭とかお祭りが出来たらと思ってらっしゃるので、まちづくり事業を使って、農業が楽しいというのをアピール出来たらいいと思っている。

（正木副会長）

おっしゃるように米では生計が成り立たない。ただ、米をおいしくするかどうかは、一つは土地、水、それと天日干し、昔は木に垂らしてから日に当てていた。それだけで味が変わる。だが昔のやり方で脱穀も大変。今は全部機械です。そこを簡単にするには、機械で刈ったあとの籾がついている状態でブルーシートのうえで天日干しをするがそんなに量がとれない。今はライスセンターとかで乾燥させているので日に当ててないので、若干の違いはある。農家の方がどこまでしようと考えられるかだと思う。

（柴田会長）

城南にも城南の米をブランド化しようとしているグループがあるので、そことも交流されてもいいと思う。

（後藤委員）

デマンドタクシーのことだが、莎崎地区は富合小学校まで4キロあって、子どもたちが毎日歩いて通う。市にスクールバスをお願いしたら、莎崎は遠かなあという程度だった。そこで、私は熊本市役所の電停の前から4キロ計測したら健軍神社参道付近まであり、その間に小学校が3つぐらいあった。このことを話した結果、デマンドタクシーを利用したらということになり利用することとなった。しかし、実際利用を始めて3年ぐらいになるが今は利用者はゼロ。利用がなかった原因は、事前予約が必要で通学に使うとなると使い勝手が悪い。それより家族が送った方が早い。このタクシーは高齢者の人たちも全然使わない。もう少し使い勝手のいいように研究していただきたい。

（松永委員）

農業体験はチーム城南ワンダホーでもやっていて、ハウスのきゅうりとか苺とかの収穫体験や塚原古墳で勾玉造とかの体験をやっている。

デジタルスタンプラリーの応募者のプレゼントは何名までとか基準があるのか。

それと南区のシンボルマークやキャラクターと書いてあって、キャラについて教えてほしい。

（柴田会長）

スタンプラリーの景品というか、抽選の件はいかがか。

（事務局）

予算の中でどれぐらいの商品を用意できるかは、来年内部で協議しながら決定していきたいと思うが、スタンプラリーの応募者全員にプレゼントは考えていて、来年度作成す

るノベルティグッズをプレゼントにしようかと検討している。

資料の左側の紫の丸いもの、こちらが南区のシンボルマークで、右側に南区のキャラクターは4キャラいるが、これがトマトとなすびとハマグリとキュウリをモチーフにしたキャラクター。今職員が着ている上着とかジャンパー等も過去にはつくっていて、去年は丸い付箋などもつくってイベント等で配布し好評をいただいている。

（坂口代理）

親子ふれあい事業では、分からないことが多い初めてのお母さんとかもいらっしゃると思うので、親子での縦の触れ合いもすごく大事だと思うが、そこに合わせて子ども同士の横の触れ合い、お母さん同士の横の触れ合いとかも入れられるような事業になればいい。

南区防災バスツアーは熊本地震の記憶の風化を防ぐところに重きを置かれていると思うが、南区に観点を置いて南区の地域の防災に関するテーマで熊本地震の記憶や地域にこういったところがあったとかいうこともこの防災バスツアーの中で入れられるのか。

また、防災の観点からいくと、今後につながる地震の記憶の風化を防ぐことも大事だと思うが、今後につながるハザードマップの教育とかもされるのか。

（事務局）

まだ完全に内容が決まっていないが、今のところバスツアーの中に防災遺構を巡るものがある、その移動中に防災士にガイドツアーとして乗っていただいて、防災士がハザードマップであるとか、過去の地震の記録とか、いろいろな話を踏まえてツアーをしていただくことも検討している。将来的に、まだ構想であるが防災バスのツアーガイドを南区内の防災士に任せていきたいと考えている。

（柴田会長）

各地に語り部がいらっしゃるの、生の声を聞くというのも大切なのかなと思う。ぜひ、そのメニューの際にご検討いただきたい。

次が区長から御紹介のあった南区サロンになるので、進行は事務局にお返しする。

「南区サロン（自治会の在り方等について）」資料2

＜資料2について 事務局から説明後、意見交換を行った。＞